

小名浜の新たな魅力創造事業
「港と市街地の一体的なまちづくり」計画書

平成 28 年 3 月

小名浜の新たな魅力創造事業に係る
ワーキンググループ
(賑わい・景観部会、交通部会)

- 目 次 -

1. 計画の目的	1
1-1. 計画策定の背景	1
1-2. 計画の位置付け	2
2. 分野別のまちづくり計画	3
2-1. 「賑わい創出」に関する取組み	3
2-1-1. 「賑わい創出」に関する課題と取組みの方向性	3
2-1-2. 「賑わい創出」に関する取組み	4
(1)回遊促進方策の活動支援組織及びポケットパーク等使用ルール(案)	4
(2)回遊促進方策(案)～取組み事例集～	11
2-2. 「景観形成」に関する取組み	20
2-2-1. 「景観形成」に関する課題と取組みの方向性	20
2-2-2. 「景観形成」に関する取組み	21
(1)景観意識啓発方策(案)～取組み事例集～	21
(2)「独自の景観形成」の実施に向けた景観ルール(各種制度等の活用)	28
2-3. 「交通錯綜軽減」に関する取組み	29
2-3-1. 「交通錯綜軽減」に関する課題と取組みの方向性	29
2-3-2. 「交通錯綜軽減」に関する取組み	30
(1)広域アクセス路への誘導に資する情報内容や提供手段(案)	30
(2)駐車場の満・空情報の把握・共有方法と連携方策(案)	33
(3)小名浜魚市場及びいわき・ら・ら・ミュウ間の交通錯綜軽減方策(案)	36
(4)イオンモール開業後の交通実態に合わせた 交通錯綜軽減に向けたソフト施策(案)	37
資料:計画策定の経緯、ワーキンググループ委員名簿及び各部会員名簿	40

1. 計画の目的

1-1. 計画策定の背景

小名浜は、古くから港町として栄えてきた歴史を持ち、東北地方有数の工業港として地位を高めるとともに、県内随一の水揚げを誇る漁港区も有し、工業・漁業が地域の産業を支えてきました。

また、1・2号埠頭のアクアマリンパーク（アクアマリンふくしま、いわき・ら・ら・ミュウ、小名浜美食ホテルを中心とした観光施設群）には、年間200万人を超える観光客が訪れていました。

しかし、東日本大震災により、小名浜港では岸壁が破壊され、大型船が乗り上げるなど凄惨な光景を呈し、小名浜港の工業、漁業、観光等の各産業のほか、既成市街地でも多くの建物が甚大な被害を受けました。

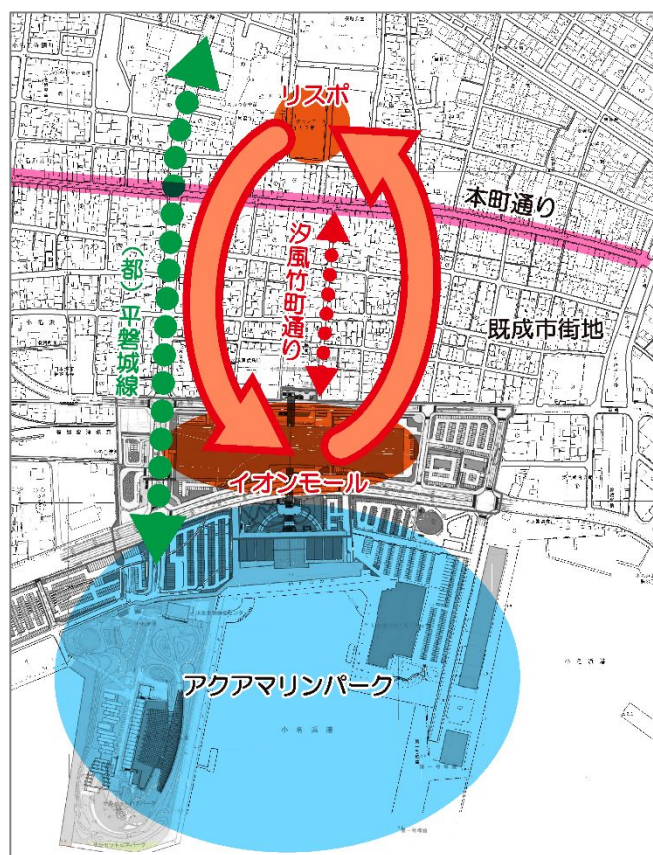
東日本大震災後の小名浜は、いわき市復興ビジョンに位置付けられた「復興のシンボルとしての港を中心とした拠点整備」「港と既成市街地等を一体的に捉えた整備・再生」を方針としてまちづくりが進められています。

特に、アクアマリンパークと既成市街地との間に所在していた小名浜臨海鉄道の小名浜貨物ターミナルが移設され、新たに「都市センターゾーンの開発・整備」が行われることとなったほか、汐風竹町通りの整備が進められるなど、東日本大震災以前より課題となっていた「港と既成市街地の一体化」「観光客を対象とした既成市街地への回遊促進」に対し、解消に向けた基盤（ハード）が確保されることとなりました。

都市センターゾーンの中核となる商業等施設の整備・運営にあたる「開発事業協力者」としてイオンモール株式会社（以下、「イオンモール」という。）が選定され、開業に向けた準備が進められています。

本計画書は、イオンモール開業後の「港と既成市街地の一体的なまちづくり」の実現を目指し、「賑わい創出」「景観形成」「交通錯綜軽減」の視点から必要な施策を取りまとめたものです。

また、取りまとめた各種施策は、小名浜の復興に向けた各種基盤（ハード）整備の効果を高め、既成市街地～イオンモール～アクアマリンパーク間が繋がりに、回遊による賑わい創出に資するソフト的な取組みとなっています。



▲ 港と既成市街地の一体的なまちづくりのイメージ

1-2. 計画の位置付け

本計画書は、平成 26～27 年度にかけ福島県の「小名浜の新たな魅力創造事業」の中で策定を行いました。

本計画書の策定に際し、港と既成市街地の一体的なまちづくりに向けた各種取組みを検討する「賑わい・景観部会」「交通部会」、各部会検討成果の調整等を行う「小名浜の新たな魅力創造事業に係るワーキンググループ」を設置し、取りまとめた内容は「小名浜港背後地等の整備に係る連絡・調整会議」にて報告・確認・調整を行いました。

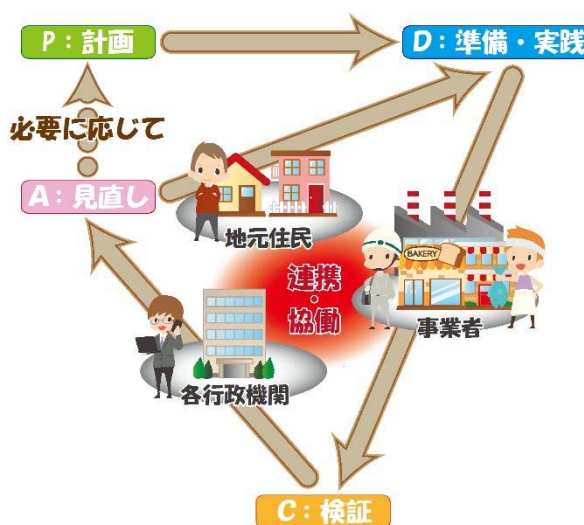
各部会では、地元住民・事業者・各行政機関が主体となる、短期的に実践すべき取組みを検討しました。



▲ 取組みの展開イメージ

本計画書を活用し、イオンモール開業に向け、地元住民・事業者・各行政機関が主体となって各種取組みを準備・実践するとともに、開業後は、取組みの継続・改善、更なる発展を目指します。

また、なるべく多くの地元住民・事業者の方に「小名浜のまちづくり」に参画を促し、「自らがまちを育てていくんだ!」という機運を高めていく事が重要です。



▲ 取組み体制のイメージ